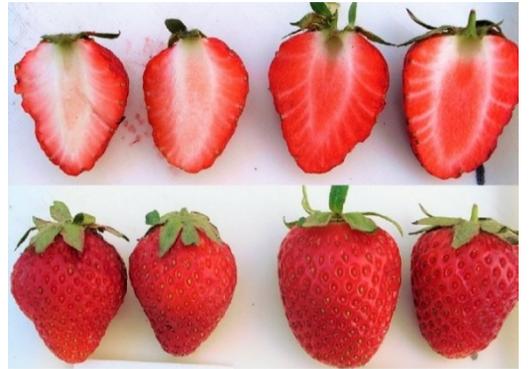


「東京おひさまベリー」の栽培について

1. 特徴

- ① 「東京おひさまベリー」は、「宝交早生」の果実が軟らかく、収穫後半に小さくなるなどの欠点を改良した新しい露地用品種である（図1）。
- ② 果実は、「宝交早生」と比べて果皮、果肉ともに硬く、大きい。また、果皮が鮮やかな赤色で光沢があり、内部も赤色である（図2）。
- ③ 糖度は「宝交早生」と同程度で酸度がやや高く、甘味、酸味ともに強く、さらに独特の香りを有し、食味は良好である。



宝交早生 東京おひさまベリー
図2 「東京おひさまベリー」の果実
上：断面、下：外観

図1 イチゴの栽培歴例

月 作型	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
露地栽培	◎	◇			◇	▲	▽	∩	■			

◎定植 ◇追肥 ▲マルチ ▽敷きわら ∩防鳥網 ■収穫期間

2. 栽培方法

① 定植準備

- ① 連作を避け、土壌の通気性や排水性がよく、萎黄病やネグサレセンチュウなどが発生していない圃場を選び、発生している場合は必ず土壌消毒を行う。
- ② 基肥として10a当たり堆肥を2t、苦土石灰200kg、窒素成分で10kgを化成肥料や有機質肥料を全面に施用し、幅70~80cmのベッドを作る（表1）。

表 イチゴの施肥例（10a当たり）

	資材・肥料	施肥量 (kg)	成分量 (kg)			備考
			窒素	リン酸	カリ	
基肥	木質牛ふん堆肥	2000				
	苦土石灰	200				黒ボク土 pH5.8の場合
	化成8号（8-8-8）	50	4.0	4.0	4.0	
	有機配合（8-8-8）	50	4.0	4.0	4.0	
	重焼燐2号（0-35-0）	50		17.5		沖積土場合 8割
追肥	NK化成2号（16-0-16）	25	4.0		4.0	1回目 11月中旬頃
	NK化成2号（16-0-16）	25	4.0		4.0	2回目 2下旬
合計			16.0	25.5	16.0	

東京都施肥基準参照（対象品種：「宝交早生、東京おひさまベリー」）

② 定植

- ◎ 収穫時に果房が通路側に出るように、ランナーをベッドの内側に向け、株間25～30cmの2条千鳥植えて植え付ける。（図3）。
- ◎ クラウン部が土に埋まらないように覆土し、よく鎮圧した後、十分灌水をして活着を促す。
- ◎ 定植が遅くなると根張りや生育がわるくなり、収量低下を招くので、10月下旬までに定植する。

③ 定植後の管理

- ◎ 追肥は、11月中旬と2月下旬に窒素成分で4kg/10aをベッドの中央と肩に施用する（図4）。
- ◎ 枯葉や老化葉を適宜取り除き、2回目の追肥後の3月上旬に黒色マルチを張る（図5）。
- ◎ 開花後、乾燥や雨水の跳ね上がりを防ぐため、通路に敷きわらや除草シートなどを敷く。

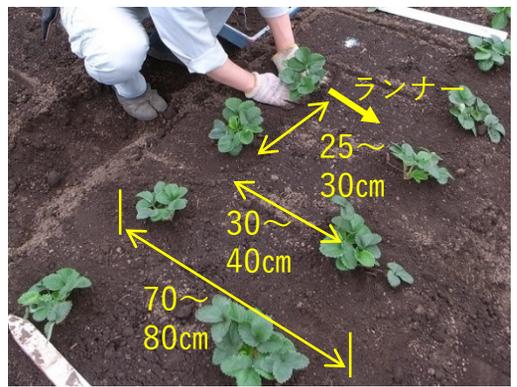


図3 定植の様子



図4 追肥

3. 病害虫防除

- ◎ 萎黄病の抵抗性は、「宝交早生」と同程度で罹病性であるので、土壌消毒が必要である。
- ◎ 灰色カビ病や害虫の対策として、枯葉や障害果を取り除き、薬剤による予防に努める。

4. 収穫

- ◎ 収穫期が近づいたら、鳥による食害を防ぐために圃場全体に防鳥網を張る。
- ◎ 開花後30～35日程度で着色するが、完熟してから収穫すると酸味が落ち着いて食味がよくなる。採り遅れて過熟になると軟化するので注意する。

5. その他

- ◎ 「東京おひさまベリー」は草勢が強く、窒素の肥効が強いと過繁茂や先青果が発生するので、窒素施用量を減らす必要がある（図6）。
- ◎ 果柄が「宝交早生」と比べて長く、果実が通路に出ることがあるので、ベッドの内寄りに定植するか、ランナーの切り口を内側ではなく斜めに向けて植え付ける。



図5 マルチ張り



図6 果房および先青果